

---

# くだらない話

山羊ノ宮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
くだらない話

【Nコード】  
N8435M

【作者名】  
山羊ノ宮

【あらすじ】  
この星は、この地球はあとのくらいもつのだろうか？

くだらない話である。

「大きなリンゴがありました。そのリンゴの中には虫が一匹住んでいました。その虫は毎日リンゴをかじって生きていました。けれど、ある日訪れます。虫はリンゴを食べつくしてしまったのです」

親の言い聞かす物語に子供が目を輝かせて聞いていました。

そして、「その虫はどうしたの？」と続きをさがみます。

「あー君はどうしたと思う？」

親は子供に逆に問いかけます。

すると子供は困った顔をして、「新しいリンゴを探しに行く？」と不安げに答えます。

「周りにリンゴは無いの。何処にも行けないのよ。あー君」

「そっか」

残念そうに子供は呟いた。

「それで続きは？」

「そうね。続きだったわね。その虫はずっと空っぽになったリンゴの中で助けを待っていたの。それで・・・」

「虫は蝶になったのさ。いつの間にか虫は大人になっていて、蝶になっていたんだ。そして、どこかに遠くに飛んでいった」

親と子供は目を丸くして口を挟んだ私を見ていた。

くだらない話である。

何もこれから滅びゆく運命をそんな風な児童で教えなくとも。

それよりも夢を。

美しく楽しい夢を。

そう私が思うのは退廃的な思考か。

思わず私から笑みがこぼれた。

この星は、この地球はあとのくらいもつのだろうか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8435m/>

---

くだらない話

2010年10月8日16時12分発行